第２章　各教科等における学習評価

１１　総合的な学習の時間

総合的な学習の時間においては、学習指導要領が定める目標を踏まえて各学校が目標や内容を設定するという特質から、各学校が観点を設定するという枠組みが維持されている。一方で、各学校が目標や内容を定める際には、学習指導要領において示された「各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと」（第２の３（１））について考慮する必要がある。つまり、各学校における教育目標を踏まえて、各学校において定める目標の中に、この時間を通して育成を目指す資質・能力を「三つの柱」に即して具体的に示すということである。

したがって、観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように指導と評価を進めることが考えられる。ここでは、次の単元を例として示す。

第６学年　「地域の絆を再生しよう」（福祉）

①　単元の目標を作成する

学校において定める内容（「探究課題」及び「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）をよりどころとして、中核となる学習活動をもとに、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確にして単元の目標を作成する。

少子高齢化や核家族化を背景に、さみしさを抱えながら暮らす高齢者の孤独の解消に向けて活動することを通して（具体的な活動）、高齢者のくらしを支える取組や人々の思いに気付き〔知識及び技能〕、高齢者のくらしを支える「地域の茶の間（地域の人々が集い交流できる場）」の在り方について考える〔思考力、判断力、表現力等〕とともに、学んだことを自らの生活や行動に活かそうとする〔学びに向かう人間性等〕ことができるようにする。

②　単元（題材）の評価規準を作成する

評価規準の設定の仕方と作成のポイント

「知識・技能」

・当該単元で育成を目指す資質・能力を例えば「理解している」などの文末にして作成する。

・内容の設定の段階において、探究課題で扱うテーマから考えられる概念から学習活動を想定して具体化したり、学習活動を進める中で児童が得るであろう知識や技能を参考にしたりして、子どもたちにどのような概念の形成を期待するのかということを明示することが重要である。

「思考・判断・表現」

・当該単元で育成を目指す資質・能力を、例えば「している」などの文末にして作成する。

・内容の設定の段階において、探究課題の特質から想定される問題状況、収集が可能な情報の性質、整理・分析において有効な観点、まとめ・表現において想定される相手や目的などを十分に検討することが大切である。その上で、探究的な学習の過程において、児童が相手や目的に応じてどのような「知識及び技能」や、各種の「考えるための技法」等を選択し、活用できるかということを想定することが必要である。

「主体的に学習に取り組む態度」

・当該単元で育成を目指す資質・能力を、例えば「しようとしている」などの文末にして作成する。

・自分自身に関すること及び他者や社会に関することの両方の視点を踏まえることが求められる。その上で、活動の見通しをもつ場面や各時間や単元の振り返りの場面の観察や作文などを通して、自らの課題を更新しているかどうかや、児童が自らの学習活動を適切に把握し、見通しをもって学習を進めようとしているかどうかを把握することが大切である。

このことを踏まえて、本単元の「単元の評価規準」を以下のように設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①高齢者のくらしを支える 取組や人々の思いを基に、「地域の茶の間」は、地域の人と思いを共有し、協働でつくることで持続可能なものとなることを理解している。 ②高齢者とその暮らしについて学んだことが自分の生活と深く関わっていることを理解している。 ③「地域の茶の間」を開催したり、モデルケースを調査・体験したりして収集した情報と情報との関係について、図や文章でまとめる方法がわかっている。	①地域の高齢者とその暮らしについて、理想との隔たりから課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②高齢者の孤独の解消のために必要な情報を、手段を選択して収集している。 ③持続可能な「地域の茶の間」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①活動を通して、自分と身の回りの高齢者とのかかわりを見直そうとしている。 ②「地域の茶の間」の体験を通して得た知識や自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③課題解決の状況を振り返り、あきらめずに高齢者の孤独の解消に向けて取り組もうとしている。

③ 指導と評価の計画を作成する

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階（時間）でどの評価規準に基づいて評価するかを決定し、実際の学習活動を踏まえて評価方法を計画する。

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
高齢者のさみしい気持ちをなくす「地域の茶の間」をつくろう （１５時間）	・地域の高齢者とその暮らしについて調べ、高齢者の困りごとに気付き、理想と現実の隔たりから学級全員で取り組む課題を設定する。 ・必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画（場所や日時、プログラム等）を立てる。 ・学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・改善する。 ・計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。	①	①	①	知：作文シート 思：発言内容 作文シート 態：発言内容 作文シート
持続可能な「地域の茶の間」のモデルケースを調査・体験しよう （１０時間）	・「地域の茶の間」の活動を振り返り、活動の意味や価値を考えることで、課題を再設定する。 ・「地域の茶の間」を持続可能な形で運営しているモデルケースの調査・体験活動を行い、必要な情報を収集する。 ・モデルケースの特徴を整理し、その背景を分析することで、高齢者のくらしを支える人の工夫や思いに気付く。 ・自分たちが開催した「地域の茶の間」とモデルケースの調査・体験活動を基に、持続可能な「地域の茶の間」の在り方について考え、概念的知識を形成する。		① ② ③	②	思：発言内容 作文シート 知：作文シート 思：行動観察 作文シート 技：ファシリテーショングラフィック 知：発言内容 作文シート 思：発言内容 作文シート 態：発言内容 行動観察
高齢者だけではなく地域の人に必	・概念的知識を基に、課題を再設定する。 ・必要な情報を調べながら、「地域の茶の間」の計画（場所や日時、プログラム等）を立てる。		②		思：発言内容 行動観察

要とされる「地域の茶の間」をつくろう（１５時間）	・学習課題に照らし、「地域の茶の間」の計画を修正・改善する。 ・計画を修正・改善しながら複数回の「地域の茶の間」を開催する。	②	④	②	態：発言内容 行動観察 思：行動観察
地域との協働で持続可能な「地域の茶の間」をつくろう（１０時間）	・これまでの活動で課題が解決されたかを振り返り、課題を再設定する。 ・地域の誰と協働すればよいかを考える。 ・地域の方に、協働で「地域の茶の間」を継続開催することを働きかける。 ・これまでの活動を通しての自分の変化を振り返り、作文にまとめる。		④	③ ① 	態：発言内容 作文シート 思：作文シート 行動観察 知：作文シート 行動観察

④　実際の指導及び評価

「知識・技能」

評価の際は、探究的な学習の過程を通して得られた「知識及び技能」を既有の「知識及び技能」と関連付けて統合された概念として形成されていく過程に着目する。本単元であれば、持続可能な「地域の茶の間」の在り方を話し合う場面では、「高齢者の立場に立って、気持ちを考えることが大切だ」という考えをもっていた児童が、対話を通して「地域の人の立場に立って、地域の人にとっても必要となる場になることが大切だ」という考えにも気付いた。そして、それら二つを統合的に考えることで、「地域の茶の間は高齢者のためだけではなく、地域のみんなにとっても大切だと思える場であり、そういう場を地域との協働でつくることが大切だ」といった概念を形成するに至った。これは、福祉とは何かということを考える際の重要な概念となることが期待される。

「思考・判断・表現」

評価の際は、探究の過程における各学習活動の目的に即して、「知識や技能」を適切に活用する姿やその過程に着目する。本単元であれば、活動を決める際に、できそうな活動を洗い出し、「誰とするか」「どれくらい時間がかかるか」という２軸を児童が設定し、座標軸を用いて「分類する」ことで、クラス全体で取り組むべき活動を設定する場面では、児童が目的に応じて「分類する」技法を選択し、それに応じた思考ツールを活用することで活動を決定している。この場面においては、これらの選択・活用は適切であると判断することができる。

「主体的に学習に取り組む態度」

評価の際は、児童生徒がこの時間を通して期待されている自己の生き方を考えたり、社会に参画しようとしたりする態度につながる学習活動への取組として、問いを立てることや解決に向けた見通しをもつ姿に着目する。本単元であれば、地域の祭りに関心がなかった児童が、地域の祭りに関する詳細な説明を聞き、どうしてその舞を踊るのかという問いをもつ。その後、舞の体験や保存会の方へのインタビューを通して、地域の祭りへの愛着を深めるとともに祭りの存続の危機に直面していく。そして、地域の祭りの存続への切実感を高め、自分たちで広報活動をするという課題へと更新していく姿が考えられる。

⑤　観点ごとに評価を総括する

活動や学習の過程、作品や成果物、発表や討論などに見られる学習状況や成果などについて、児童生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進捗状況などを踏まえて、評価結果を総合する。

＜参考資料＞
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校)」（国立教育政策研究所）